１　沿　　革

野木町の歴史は古く、旧石器時代（約１万５０００年前）の地層から石器が見つかっており、そのころからすでに人々が生活していたと考えられています。

また、縄文時代前期には、東京湾が野木町周辺にまで広がっていた様子を示す貝塚や出土品があり、古代豪族の古墳や遺跡も残っています。

「野木」の地名の由来は、平安時代中期につくられた「倭名類聚鈔（わみょうるいじゅしょう）」の記述に寒川郡「奴宜郷（ぬぎごう）」とあることから、その「奴宜（ぬぎ）」がなまって「野木」となったと考える説があります。

江戸時代には、日光街道の千住宿から数えて１０番目の宿にあたり、日光社参、参勤交代の伝馬の宿として栄えました。

昭和３８年１月１日、町制が施行され、新生「野木町」が誕生しました。また、同年野木駅の設置により東京方面へ７０分、宇都宮へ４０分と地の利を得た野木町は、恵まれた交通条件や地理・地形条件等を背景に、昭和５０年代以降宅地開発や企業の進出等により都市化が進展し、古くから形成されている田園集落地とともに、県南地域のなかにおいて都市と農村で構成される特色のある町となっています。

平成２８年３月に策定した「キラリのぎプラン」では、町民の皆様が自然と人との調和がとれた住みよいふるさとを受け継ぎ、すべての町民がうるおいのある喜びに満ちた暮らしが送れる将来像を「水と緑と人の和でうるおいのあるまち」と位置づけ、これの実現を目指すと共に、未来の子供たちに引き継いでいこうとするものです。更に、「小さくてもキラリと光るまち」をキャッチフレーズに、「やさしさとやすらぎに満ちた明るいまち」を目指していきます。